

◎本會北海道支部發會式

本會の會員は日を逐ふて増加しつつあるが、北海道に於ても五百餘名の會員を得たるを機として、六月十七日札幌市北海道會議事堂に於て本會支部發會式を舉行した。本會よりは、恰も道路改良講演のため道内旅行中の水野會長初め内田副會長、松木理事、堀切理事、島理事丹羽幹事及都筑幹事出席、午前十一時遠山北海道廳土木部道路課長（本會北海道支部幹事）の擧式の辭によつて開會劈頭土岐北海道廳長官（本會北海道支部長）議長席に着き會則を附議したが満場異議なく原案可決し次で、

支部長式辭、道路改良會長告辭、内務大臣の祝辭（堀切土木局長代讀）及び札幌市長、北海道帝國大學總長、北海タイムス社長、北海道會議長、北海道廳附新聞記者代表、山田北海道町村長會々長（本會々員總代）の祝辭ありて大森北海道廳土木部長（本會北海道支部副支部長）の閉會の辭に依つて閉會引續き道廳前の鐵道俱樂部に於て立食の饗宴あり、土岐支部長の挨拶に次で水野會長の答辭あり佐藤北海道帝國大學總長の發聲にて道路改良會の萬歳を三唱して宴を終り目出度散會した。當日は佐藤北大總長を初め各方面の名士二百五十名出席し盛會を極めた。尙同日決議した支部會則、式辭、告辭並に内務大臣の祝辭は左記の通りである。

◎道路改良會北海道支部規程

- 第一條 本支部ハ道路改良會北海道支部ト稱ス
- 第二條 本支部ハ道路ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本支部ハ事務所ヲ北海道廳土木部道路課内ニ置ク

第四條 本支部ハ第二條ノ目的ヲ達スル爲評議員會ノ決議ヲ經テ毎年其ノ事業ヲ定ム

第五條 本支部ハ左ノ會員ニ依リ組織ス

一 北海道内ニ住所ヲ有スル本會ノ賛助員及通常會員

二 支部名譽會員、金百圓以上ヲ支部ニ寄附シタルモノ

三 支部特別會員、評議員會ニテ推薦シタルモノ

第六條 本支部ニ左ノ役員ヲ置ク

一 支部長 壹名

二 副支部長 壹名

三 顧問 若干名

四 評議員 若干名

五 幹事 若干名

第七條 支部長ハ北海道廳長官ヲ推戴ス副支部長、顧問、評議員ハ支部長ニ於テ本支部會員中ヨリ之ヲ推薦ス

幹事ハ支部長之ヲ囑託ス

第八條 支部長ハ會務一切ヲ總理ス

副支部長ハ支部長ヲ補佐ス

顧問ハ重要會務ニ參與ス

幹事ハ支部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ處理ス

第九條 本支部ニ書記若干名ヲ置キ支部長之ヲ任免ス

書記ハ支部長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十條 評議員會ハ隨時之ヲ開キ重要事項並ニ總會附議事項ヲ

議決ス

會員總會ハ毎年一回之ヲ開キ事業並ニ會計報告ヲナス

會議ハ出席者過半數ノ賛成ヲ得テ決スルモノトス

第十一條 本支部會員ハ本會開設ノ講習會講演會ニ出席シ本會

發行ニ係ル雜誌ノ配付ヲ受クルコトヲ得

前項以外ノ印刷物ハ實費ニテ配付ヲ受クルコトヲ得

第十二條 本支部ハ會員ノ會費及寄附金ヲ本會ニ納付スルモノ

トス

本支部ノ經費ハ會員ノ會費寄附金ノ一部及本支部ニ對シ特ニ

寄附シタル金員等ヲ以テ充ツ

◎土岐支部長の式辭

本日道路改良會北海道支部發會式を舉行するに當り朝野貴賓の貴臨を仰ぎ茲に盛大な式典を擧ぐるを得たるは感謝に堪へざる所なり、抑々我北海道は明治二年長くも帝國北門の鎮鑰として開拓に關する優詔を賜りて以來歴代當局及道民は聖旨を奉體し上下一心本道開拓の事業に盡瘁したり爾來星霜五十有餘年其

の間文物制度の變遷に伴ひ拓地殖民の氣運は駁々として底止する所なく今や人口約二百五十萬開墾面積八十二萬餘町歩に達し海陸生産總額實に五億圓の巨額に上れり、今後時代の趨勢は交通機關の完備と共に殖産興業の躍進を促がし本道開拓史上の一新生面を展開するに至るべきを信ず竊て本道内の道路を顧みろに總延長實に一萬百有餘里に上ると雖も之を總面積六千百十五萬方里に對照し來れば一方里僅に一里二十三町餘に過ぎず之内地府縣に於ける一方里二十有餘里に比較するときは其相距ること實に雲泥の感なくんばあらず、而かも既設道路の實況を見るに其の多くは所謂踏分道路にして今尙依然原始的構造のものあり或は奇嶮險隘にして人跡稀に全然車輛を通ぜざるものあり或は路面の毀損に依り泥濘膝を没し其の粗惡なること實に言語に絶するものあり加ふるに氣溫土性の關係は極めて天恵に乏しきを以て本道々路の維持改善の業たるや實に難事中の難事と謂はざるべからず道路の改良は我國に於ける急務たるは勿論本道現状は其の緊要を認むること一層切實なるものあり今や幸にして時機正に熟し茲に道民一致の要望に副ひ本支部の設立を見るに至れるは洵に欣快に堪へざる所なり然れども今後支部の使命として爲すべき事業甚だ多し其の目的を達成すること前途尙遠

遠なり翼くば官民一致益々斯業の改良發達を促進し以て本道開發の進運に寄與せられんことを聊か所懐を述べて式辭とす

大正十四年六月十七日

道路改良會北海道支部長 正四位勳三等 土岐嘉平

◎水野會長告辭

交通機關の整否は國運の隆替に影響する所頗る大なるものあり就中道路は普遍的交通機關として之が良否は直ちに國民生活と緊密なる關係を有す隨つて完全なる道路の築造を圖るは刻下最も緊急の要務と謂はざるべがらず顧ふに道路は鐵道と共に陸上交通の二大機關にして明治維新以來漸次改善の歩を進め來りしと雖も鐵道に比し其の施設に於て遜色甚だしきものあり爲に鐵道の發達に依りて得る所の利益も國民經濟上に十分なる効果を顯はす能はざる状態に在り斯の如くして我國道路の基礎政策を爲すに至れり固より是等の施設たる國家其の他の機關の管掌する所に屬すると雖も國民經濟上重大事に屬するを以て單に是等機關にのみ依頼して已むべきにあらず大正八年同志相謀りて本會を創設し我國道路の改善を促がし道路愛護の思想を涵養せんことを期したり之が爲め汎く道路改良に關する方策を講究し或は當局に建議し或は全國に亙りて之を宣傳する等此の目的の

爲に努力する所あり今や本道官民有志の協力に依り本會北海道支部の設置を見るに至れるは誠に欣快に堪へざるなり由來本道は地域廣袤にして無限の富源を藏せるに拘らず之が開發に必要な交通機關の發達未だ十分ならず爲に此の資源を利用することを得ず是れ實に國家發展上遺憾なりと謂はざるべからず冀くば本道支部の設置を機として協力一致之が改善整備に努め以て拓殖事業の進展に資し延ひて國民民福の増進に寄與せられんことを發會式に當り一言所懐を述べて之を祝し併せて將來の奮勵を祈る

大正十四年六月十七日 道路改良會會長 水野鍊太郎

◎内務大臣式辭

道路改良會北海道支部設置せられ本日を下し發會の式典を舉げらるるに會ふは余の寔に欣幸とする所なり、抑々地方の開発産業の振興は交通機關の良否に係ること甚だ大なるものあるは言を俟たざる所なるが本道の如き土地廣潤にして天産頗る豊富なる地方に於ては其の開拓上道路の使命特に重大なるものあり今や道内多數の同志相集つて道路改良會北海道支部を設置し益々道路の完備に努めらるるに至れるは寔に慶賀に堪へざる所なり冀くば協力其の目的の達成に竭し以て本道の開發に至大に

寄與を爲されんことを一言述べて祝辭とす

大正十四年六月十七日

内務大臣 若槻禮次郎

◎軌道安全地帯設計標準

帝都復興事業中街路の新設にして、幹線路線延長約十萬八千五百三十四米には大體軌道が敷設せらるゝこととなるが、是等の街路には特別の場合を除く外、軌道交叉點及交叉點以外の重要なる停留場には安全地帯を設くる計畫で、其の設計の標準は次の様式に依ることとして内務省土木局と協議した。(祝井貞雄)

一 特別の場合を除く外其の幅は

街路幅(米) 安全地帯幅(米)

四四 一、八

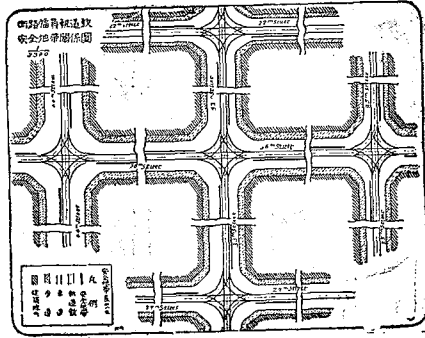
三六 一、八

三三 一、八

二七 一、二

- 二五 一、二
- 二二 一、二

二 特別の場合を除く外其の長さは
特に重要な停留場 四七、〇米



其の他の停留場

三三、〇

三 高さは 鋪裝面〇、一〇米を標準とす

- 四 安全地帯と外軌條との間隔は直線部に於て二尺とす
- 五 電車分岐線ある場合は分岐線始點より手前に設く
- 六 電車分岐線なき場合は街角見透し線より手前に設く

◎鹿兒島縣下道路美聞二件

道路に關する美舉好評は、從來も屢々之を耳にし、また本誌上に於ても數回掲載せられたところであるが、世は擧げて只管物質文明にのみ憧れつゝあるとき、今復鹿兒島縣下に於て二つの快報を耳にした。即ち國民歡喜の奉祝日である五月十日 御結婚滿二十五年當日に於て宮内大臣より公共事業篤行者として表彰せられたるものと、五月二十日同縣知事より、國道府縣道維持修繕表彰規程の定むるところに依つて表彰を受けたもの一つとである。左に之を略記せう。

井原十兵衛氏は安政五年八月五日鹿兒島郡谷山町山田二〇六番戸に生る。幼少より農業に従事し傍社會奉仕に務め、谷山町山田道路破損し泥濘深く、人馬の交通困難

にして動もすれば危険の恐れあるを憂へて、大正十二年十月より六十六歳の高齢なるにも拘はず毎日道路修繕の爲に單獨努力し、交通の便宜を計りし結果、沿道住民一般の尊敬措かざるは固より、青年子弟をして益々感奮せしめ、社會奉仕の觀念を一層起さしめたるは衆人の模範とする所であると言ふので宮内大臣から表彰せられた。

日置郡郡山村に於ては、大正十三年六月、十月の二期に互り府縣道鹿兒島宮之城線延長二里十九町の小破修繕工事を施行竣成せしめたるものにして、其の成績顯著なりと言ふので知事から表彰せられたのである。(小兵衛)

◎島國根性と賃取橋 德島縣撫養町の紛擾

阿波の國撫養は、古來製鹽を以つて名のあるところであるが、今茲にモ一一つ滿天下に紹介する事件がある。しかもそれは至つて鼻モチのならぬことであつて筆取るさへ氣恥かしい次第だが、事實は事實であり、且つ餘り

に珍らしい馬鹿氣なことだから敢て之を掲記して讀者諸君と共に銷夏清涼劑として笑ふことゝし度い。それは外でもない問題は至つて簡潔である。即ち從來撫養町地内に一つの渡船場があつて、之が爲町の交通上の不便は甚大なものであつた。所が最近に於て此渡船を廢し賃取橋梁を設置したいといふ出願があつたので、道路管理者たる町長は、町の交通上の見地より將又町發展策の一助として適切なる計畫なるを以つて、道路法の規定するところに依つて、監督官廳の認可を得て之を許可したのであつた。ところが平素公私共に町當局と意見の合はぬ町會議員連中は、此の許可を以つて町會を無視し且つ專恣橫暴の處置なりとして之が許可の取消を要求すると同時に町長の辭職を勸告し、町當局が如斯理不盡なる要求は斷じて應じ難きを言明するや今度は架橋反對を知事に陳情する等幼稚なる島國根性を遺憾なく發揮した。一方架橋に依つて直接利益を受くべき地元町民は、架橋自體が時

代に順應する適切なることであると、町當局の爲したる處分行爲が適法であつて非難すべき點なしと主張し、町會議員が一部製鹽業者の請托を容れて如斯事態を惹起せしむるは、町の發展を阻害し、議員の本分に違背し、社

會の秩序を紊り、公益上有害の行動なりとの理由を以つて、町民大會を催ふし、町會議員全部辭職の勧告をなし且つ町會解散命令降下請願書を内務大臣に提出する等。イヤハヤお暑いのに御苦勞なことで御座る哩。(小兵衛)

◎汗顔の至

數字といふ奴は誠に正直な奴だ、茫漠たる大法螺を吹いてゐる男が數字を突きつけられてギャフンと參つてしまふのは小氣味よいものだが一方法螺吹男の身になつて見ると二の句の付きようもない痛手である。本誌二四頁に掲げられた各國自動車の數字を一見すると國際聯盟では四大強國の一として威張つてゐる我々日本人たる者聊か眼を白黒させざるを得ない、何遍眼を吹いて見ても日本は矢張り十數位の下位に鎮座してゐる、英國の一屬領にさへ及ばぬのだから情ない、何しろ米國のフォード會社では一日の生産輛數は約四千臺に及び其他にも一日に百臺以上を製作する會社はザラにあるといふのだ、現在日本にある自動車の全體はフォードの一會社だけで一週間もかゝらないで作つてしまふといふのだからたまらない。

總數は少くても人口や面積に對する割合はよいぞといふ抗辯を提出することが出来るならまだ面目玉を維持し得るわけだがそれも逆も駄目だ、米國では七人に一臺といふのに日本では二千數百人に一臺といふ割合にしかならぬ、オランダやスペインでさへ遙かに之より割合がよい。

それなら落せても枯れても日本には外國製自動車は一臺もござらぬと開き直ることが出来ればまだ一方に活路ありと言へるけれども事實は全くその逆、來る自動車も來る自動車も皆片假名物ばかりなんだから益々以て恐れ入る。いや、一等國たるの地位は自動車數が少い位のことではピリツともするもんぢやないと頑張つて見てもどうも涼しうはならない。いやはや暑いことござる哩。(省吾生)